

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 62 号 平成 23 年 1 月 4 日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平字町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

顕微鏡的血尿について

泌尿器科部長 松原 廣幸



血尿には肉眼的血尿と顕微鏡的血尿がありますが、2006年に血尿診断ガイドラインが発行されているのをご存知でしょうか？そのなかで、顕微鏡的血尿の診断では5/HPF以上を陽性としています。

この顕微鏡的血尿は、加齢と共に増加し女性に多く認められ、また陽性で泌尿器科的疾患がある場合は2.3%であり、さらに腎尿路悪性腫瘍は0.5%といわれています。

この0.5%の中の尿路上皮癌を、我々は見逃さないように心がけています。

尿路上皮癌の危険因子としては

- ① 40歳以上の男子
- ② 喫煙歴
- ③ 化学薬品曝露
- ④ 泌尿器科疾患の合併
- ⑤ 排尿刺激症状
- ⑥ 尿路感染の存在
- ⑦ 鎮痛剤(フェナセチンなど)の頻用
- ⑧ 骨盤放射線照射歴(直腸がん、子宮がん治療歴など)
- ⑨ 抗癌剤(サイクロフォスファミド)治療歴

があげられます(肉眼的血尿はいうまでもありません)。

50歳以上では前立腺癌を疑い、PSA検査の検診が広まりつつありますが、40歳以上での顕微鏡的血尿陽性がございましたら、当科までご紹介下さい。

なお、精査をしても原因がはっきりしない場合があるのですが、陽性発見後3年以内に悪性腫瘍が1~3%に認められるため、経過観察として検尿、尿細胞診が必要です。

あなどるなかれ、マイコプラズマ感染症

小児科医師 桑原 里美



以前はオリンピックの年に流行するといわれたマイコプラズマ感染症も、今は年にも季節にも関係なく始終流行しています。また特に秋頃からさらに患者数がふえてきているように感じます。

最近のマイコプラズマ感染症のなかに、咳や鼻水がでて典型的な肺炎や気管支炎をおこすだけでなく非典型的な症例も混じっていました。

4歳男児。風邪症状なく発熱のみ3日間続いたあと、耳介ふくめ顔面中心に小発赤疹出現し全身にひろがり発熱も続き受診。川崎病？麻疹？と不安がよぎりながらも血液検査しマイコプラズマ抗体迅速陽性と判明しとりあえず AZM 内服。どうなることかと思いきや3日後すっかり発疹消失し解熱。麻疹 IgM 陰性も判明。ほっと胸をなでおろしました。

別の症例で、5歳男児。数週間の風邪症状が続いたあと、発熱あり突然両下肢の膝関節痛を訴え歩行不能となりました。近くの整形外科に受診されましたが原因不明といわれ当院紹介、血液検査にてマイコプラズマ感染と診断しました。AZM 内服し関節症状は速やかに改善しました。が、その後下肢に発疹出現しアレルギー性紫斑病と判明した症例を経験しました。また関節炎の症状を呈した症例は他にも経験しました。

典型的な呼吸器症状のマイコプラズマ感染症もCAMの効きが悪い(効かない?)症例も多く、冬はさらに他の感染症も増えることから注意深く診察していく必要があります。

なお、以前より予約診察のみとなっていました水曜日午前の外来は通常どおりの診察に戻しました。ご迷惑をおかけしました。今後ともよろしく願いいたします。

